

校長のつぶやき

校長室便り 第47号

令和2年1月14日 山内

○成人の日 ー成人式は18歳？ 20歳？ 本当の恥の文化とはー

昨日令和2年(2020年)1月13日(月)は成人の日。今年も日本列島、品のない騒がしい「困った成人式」の様子が報道されていました。日本は「恥の文化」なのですが。

皆さんご存じのとおり、民法が改正され、令和4年(2022年)4月には成人年齢が18歳になります。ところが、成人式のあり方を決めた法律はなく、何歳を対象とするか、開催時期は盆か正月か等すべて自治体や実施団体の判断に任されています。宮城県内では仙台市が法令で成人年齢引き下げ後も、「その年度に20歳になる方が対象で正月時期に実施」と早々に継続を表明しています。新成人の法的な根拠がなくなりますので、名称は「20を祝う会」とでもなるのでしょうか。まだ、2年もあるのに早いのでは？という考えもありますが、「呉服」「写真館」「美容室」等の予約は1年前ではほぼ埋まっているのが現状で、各自治体や実施団体は対応を迫られています。18歳開催と20歳開催双方の意見は・・・

[18歳]

- ・選挙権も18歳となり、成人式も18歳となれば、自覚を早い時期に促せる。
- ・開催時期を夏か春にずらせば受験期は避けられる。
- ・高額な和装ではなく、ほとんどが高校生であるため、学生服で出席できる。
- ・貧困が問題となっている中、高校の制服で気軽に参加でき、家計の負担軽減につながる。
- ・19歳・20歳が混在せず、飲酒・喫煙問題が減る。

[20歳]

- ・飲酒・喫煙も含め、すべて大人と扱われる年齢である。
- ・18歳の夏は就職、冬は大学受験期と重なり出席が困難になる。
- ・都会に出た若者が帰省して、地元に戻るきっかけになる。
- ・受験期と重なると家計の負担が増え、晴れ着の準備が大変である。

政府は各方面からの意見を集約し、今年度末の3月までには望ましい形を公表する予定ですが、皆さんもクラスで18歳派と20歳派に分かれて討議してみてもいいですか。

「(世間体を考え)うちの子には恥ずかしくない物を着せたい」「(まわりとの違いを気にして)人に笑われないような物を着たい」のように「正しいかどうかで行動を決めるのではなく、世間がそれをどう思うかで、自分の行動を決めている」とある米国の学者が日本を「恥の文化」と分析したのはあまりにも有名ですが、**本当の「恥の文化」**とは、我々日本人が皆持ち合わせている「罪」の意識、「良心」に訴える生き方、つまり「いつでも・どこでも・誰も見ていなくても」恥ずかしくない行動をとることが本当の「恥の文化」の日本なのです。

岩高生の皆さんには、数年後の成人式に「何を身につけるか」と外見を気にするよりも、「自分はどう生きていくか」「世のため、人のため、自分のため何ができるのか」といった気概を身につけていて欲しいのです。それが成人です。以上で今回のつぶやきはお終いです。